とちぎ義博 議会レポート

第15号 2002年夏号
発行者：福岡市議会議員 栃木義博
〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-3-13-305
TEL.845-7669 FAX.845-8511
E-mail:tochigi@bronze.ocn.ne.jp

江田五月さんと意見交流

福岡ドームの馬券売場計画が中止に!!

―― 10万市民の賛同署名が後押し

6月議会 地域混乱の原因と対策を質問追及

岩手県、佐賀県、荒尾市の三競馬組合が福岡ドームに場外馬券売場を開設しようとしていた計画は5月31日、正式に中止が表明されました。この結果は、「福岡ドームに馬券売場は要らない」と反対運動をすすめた地元住民やＰＴＡの皆さん、運動に賛同した10万人にもおよぶ市民の皆さんの切なる願いと揺るぎない決意の後押しによるものでした。

とちぎ義博は、二度と同様の事態を引き起こさないように、馬券売場問題の原因と今後の対策について議会（6月12日）で質問追及しました。

栃木　福岡ドーム周辺のシーサイドももち地区では建築が制限されていない場外馬券売場や車券場などのギャンブル施設はこの際、制限すべきではないですか。

福岡市　地区内の住民などの合意による提案があれば見直しの検討をおこなう。（前都市整備局長）

栃木　地域混乱の原因となった不透明な馬券売場の設置手続きを農水省が見直すまでの間、計画情報の開示義務や住民合意のルール確立など福岡市独自の指針（ガイドライン）を策定すべきではないですか。

福岡市　今回の経緯を踏まえ、本市の対応を整理しておくことは必要であり、主催者が十分な情報を積極的に提供したうえで、地域における合意形成がおこなわれるための方法について検討していく。（渡部総務企画局長）

「不透明な国の手続きを見直して」
民主党・江田五月参議に訴え

６月３日、民主党参議院副会長の江田五月さんと、福岡ドームでの場外馬券売り場の設置計画を断念に追い込んだ早良区百道浜住民の皆さんなど約２０名が意見交流会をおこないました。江田さんは、10年ほど前から岡山市で中央競馬会の場外馬券売り場計画に反対する住民運動を支援し続けています。この日、江田さん自身の運動経験を語ってもらい、その教訓を学なぼうと開いたものです。

「巨大な利権構造があるため、馬券売り場の動きには常に住民の監視が必要」と語る江田さんの話しを受けて、住民の皆さんは「原因となった農水省の不透明な馬券売り場設置の許可方法を見直して」と訴えました。わたしは、再び同様の問題を起させないよう競馬法など関係法令の改正に向けて民主党の衆参両院議員に働きかけを強めます。

（福岡市議会議員　栃木義博）

岩手など競馬組合とドームに断念を迫る

福岡ドームの馬券売場計画に反対表明した山崎市長を支え、住民の反対運動を後押しするために、福岡市議会議員有志８人が競馬組合などに計画の断念を申し入れました。とちぎ義博は議員有志を代表して、4月15日から19日にかけて岩手県（盛岡市）、熊本県（荒尾市）、佐賀県（鳥栖市）の各競馬組合と、福岡ドームに出向き計画を断念するよう迫りました。

岩手県競馬組合の渡辺勲副管理者に福岡ドームへの馬券売り場設置の断念を申し入れる（4月15日　盛岡市）

ドーム場外馬券場で福岡市議8人
岩手県組合に断念要請

福岡ドームへの場外馬券売り場設置問題で、超党派の福岡市議8人が15日、設置を予定している3組合のうち岩手県競馬組合に設置断念を申し入れた。16日以降、荒尾（熊本県）、佐賀県の両競馬組合や福岡ドームにも同様の申し入れをする。

この日、栃木義博議員（民主・市民クラブ）が住民の不信感を増幅させた」と訴え、「地域社会の対立と混乱の拡大を回避するため、設置計画を断念して」と要請した。

同組合は「住民への説明は自治連合会長に一任している。設置する意向は変わっていない。対応は3組合で協議したい」と説明している。【坂口佳代】

毎日新聞（4月16日）

「交通とまちづくり」シンポで提案

天神周辺の駐車場いかし、渋滞解消めざせ!

交通の視点から天神と西新地区（西新・高取・藤崎）のまちづくりを考えるシンポジウム「福岡都心と商店街まちづくりを語る」が六月十一日、とちぎ義博が事務局長を務める福岡の都市づくりと交通を考える会の主催で開かれました。↙

天神地区を歩行者中心の道に

「考える会」が1日シンポ

まちづくり、交通対策話し合う

毎日新聞（6月7日）

会場の福岡ビルホールは立ち見がでる盛況。１４０人が熱心に聞き入り市民の関心の高さをうかがわせました。シンポでは全国のコミュニティーバスの先駆けである「ムーバス」（東京都武蔵野市）の仕掛け人・岡並木さん（評論家）がビデオで基調講演。「ムーバス」誕生の背景となった日本と欧米の交通についての考え方の違いを指摘。「車が主役の交通政策を転換し、人やまちづくりへの配慮を中心に据えることで新技術に頼らなくても新しい交通の姿が見えてくる」と強調しました。

これを受けて、同会会長の福留久大さん（九州大学院教授）ら７人のパネリストに、とちぎ義博が進行役で参加して「環境と天神都心再生」「地域の人の交流と商店街」の観点から意見交換。同会の小森俊介さん（西南学院大教授）は「天神周辺の駐車場に車を誘導して、都心の車の流入量を抑え、渋滞を解消することが急務だ」と提案しました。↖

高取商店街の谷口学さんは商店主の立場から「商店街内に駐車場がいくつもできて、街に車が入り込み環境が変わってきた。ゆっくりと安心して買い物が楽しめる商店街であるために、周辺の住民や事業者とも協力して地域コミュニティーの核になれるよう努力したい」と話しました。

また商店街支援の方法を探っている一級建築士の大貝知子さんは「高齢社会での身近な商店街の存在意義は特に大きい。自家用車なしでも気軽に行けるよう公共交通や貸し自転車の高度利用など、地域で知恵を出していくことが大切」と呼びかけました。

とちぎ義博は「人と車、まちづくりの関係を問い直し、地域のニーズに合わせた交通設計を進めるため、地域の皆さんと一緒に取り組んでいきます」と締め括りました。

（近日中に報告書が発行されます）

クルマのいらない安心の商店街に（西新）

楽しかったね！自然対話バスツアー 天空おおう蛍求めて

支持者の皆さんとの交流を深めるバスツアーを6月15日、151人が参加して実施しました。４回目となる今回は「天空をおおう蛍」見学がテーマ。昨年秋「芋煮会ツアー」で訪れた甘木市黒川の「共星の里」（黒川小学校跡。廃校を利用した美術館）を拠点に、まるでクリスマスのイルミネーションのように輝く蛍の群れを見ることができました。

百道浜と西新を出発したバスは秋月城址と杷木の道の駅に立ち寄り、夕方、地元の人たちが出迎える黒川へ。グラウンドに出したテーブルには地元の人たちが前日から仕込んだ地鶏飯や山菜の煮しめ、大鍋に仕込んだ郷土料理の「くずかけ」といった料理が並べられ大感激。お腹がいっぱいになった後、薄暗がりの中を「共星の里」代表の尾藤さんの案内で「蛍の里」へ向かいました。

すると……そこは、まるで幻想の中に迷い込んだような世界。暗闇の中にはかなげな光を放つ何千という蛍に呆然と立ち尽くし、しばし時を忘れたのでした。

今回のツアーでは地元の農協（ＪＡ）の代表や公民館の館長さんからも歓迎の挨拶を受け、またまた感激。「福岡市の水瓶」ともいわれている甘木市の山里で、蛍が乱舞する水環境を守ってくれている黒川の皆さんに感謝の思いを新たにした１日でした。